



講座のアピールポイント

心理学は、人がどのように周囲や自己の情報を理解し行動しているのかを研究しています。人の理解は情報のコピーではなく変容されています。そうすることによって効率的で円滑な行動につながりますが、偏った見方や誤った判断をしてしまうこともあります。また、変容の仕方は人それぞれで異なるため、他者を理解するにはコミュニケーションをとることが大切になります。そしてコミュニケーションをとる過程で、自分の理解が自分独自のものであると知ることができます。このような経験を通して人の多様さを知り、尊重する態度を形成していきます。

本講座は、人の行動と心理の知識にもとづき、大学での教育に加え、大学病院等の看護師の教育研修に携わっています。医療は人が人を支援する行為であり、人の理解が最適な医療につながります。人の多様さを理解して、コミュニケーションのあり方を模索し実践していく医療者の育成に努めています。

講座研究紹介

本講座では、人が「いま、ここで」の自分に適した行動ができるようにするために有効な働きかけは何かを研究しています。人は様々な経験や知識から「こうするのがよい」「こうあるべき」というさまざまなルールを形成します。いわゆる「価値観」「信念」「思い込み」などと言われるものはそれにあたります。そのルールは、ある場面ではとても有効に働き人の行動をスムーズに進めますが、環境や自己が変化するとそのルールは適さないこともあります。また、多くの人にとっては望ましいと考えられているルールでも、自分にそのルールが適しているとは限りません。しかし、人はそのルールにこだわってしまい苦しい状況に陥ってしまうことがあります。人が「いま、ここで」の状況や自分にあった適切な行動やルールに変容させていくためには、どのような働きかけが有効なのでしょう。日常生活で陥りやすい人の行動を実験課題に置き換え、行動のしくみを研究しています。